

三八地域果樹生産情報(第6号)

平成28年9月15日
三八地方「攻めの農林水産業」推進本部

ふじの肥大は良好！ 適正な着色管理と防風対策で良品生産！！

1 りんごの生育

(1) 果実肥大

9月11日現在の果実肥大は、三戸の‘ふじ’が8.0cm(平年比104%)、八戸の‘ふじ’が7.8cm(平年比104%)といずれも平年を上回っている。

‘ジョナゴールド’は8.3cm(平年比98%)で平年をやや下回った。

表1 果実肥大状況(横径)

(単位；cm、%)

地点	品種名	区分	6/1	7/1	8/1	9/1	9/11	最終調査日
三戸町 梅内	つがる	本年	2.0	4.9	7.3	8.8	9.2	(9/11)9.2
		平年	1.6	4.4	7.0	8.6	8.9	8.9
		前年	2.5	5.1	7.5	8.7	—	—
		平年比	125	111	104	102	103	103
	ジョナ ゴールド	本年	2.0	4.7	6.6	8.0	8.3	(10/21)
		平年	1.5	4.4	6.6	8.1	8.5	9.2
		前年	2.7	5.1	7.2	8.3	8.5	—
		平年比	133	107	100	99	98	
	ふじ	本年	1.8	4.2	6.2	7.6	8.0	(11/1)
		平年	1.4	3.9	5.9	7.4	7.7	8.6
		前年	2.3	4.4	6.5	7.8	8.1	8.9
		平年比	129	108	105	103	104	
八戸市 櫛引	ふじ	本年	1.8	4.2	6.1	7.5	7.8	(11/1)
		平年	1.3	3.7	5.7	7.2	7.5	8.4
		前年	2.1	4.4	6.2	7.4	7.6	8.2
		平年比	138	114	107	104	104	

※平年値：‘つがる’、‘王林’、‘ふじ’ 1996年～2015年の20年間の平均
‘ジョナゴールド’ 1997年～2015年の19年間の平均

※最終調査日：‘つがる’ 9月11日、‘ジョナゴールド’ 10月21日、‘ふじ’ 11月1日

(2) 果実熟度

りんご研究所における熟度調査は例年‘ジョナゴールド’が9月19日、‘ふじ’が10月1日からとなっているため現時点でのデータは無いが、開花時期やその後の天候、‘つがる’の熟度の進み等から、中・晩生種も平年より3日程度進んでいると見込まれる。

2 着色管理と収穫について

葉摘みをはじめるとタイミングは品種により異なるが、中生種の場合は収穫の15日前頃から25日前頃、晩生種は同じく35日前頃からはじめる。

葉摘み時、残暑が続くようであれば日焼け果発生防止のため、比較的直射日光が当た

りにくい内枝から葉摘みを始める。

なお、早い時期から強く葉を取り過ぎると逆効果になるので、取り過ぎに注意する。

(1) 早生ふじ（ひろさきふじ、昂林、涼香の季節、紅将軍等）

比較的着色しやすい品種なので収穫予定日の15日前頃（本年は9月13日頃）からはじめる。早生ふじは着色の進んだものから2回程度に分けて収穫する。

(2) シナノスイート

収穫予定日20日前頃（本年は9月17日頃）からはじめる。この頃から、昼の時間が短くなり始めるので、収穫の5日前までには玉回しを終える。

心かびが比較的多い品種なので9月上中旬頃に着色し始めた果実や、収穫時に地色が黄色く油上がりが見られる果実は心かび果として除去する。

(3) 紅玉

着色系以外は着色が緩慢なため、収穫予定日の25日前頃（本年は9月13日頃）からはじめる。玉回しを含めた、着色管理は収穫予定日の10日前には終える。

なお、県の指導では紅玉の平年の収穫時期は10月12日頃であるが、県南では一般的にこれより遅い傾向にある。収穫が遅い場合、貯蔵中にゴム病や軟性やけが発生しやすいので注意する。

(4) ジョナゴールド

着色しにくい品種のため、葉摘みは数回に分けることを基本とする。

ア 有袋

外袋剥ぎは9月15日頃からであるが、外袋を剥ぐ前につる元の葉を取る。内袋は外袋除袋後5日程度経過してから剥ぐ。

一発袋や内袋を剥ぐときは日焼け防止のため、曇天の日か晴天の日中（10時～14時）に行う。また、着色しにくい品種なので晴天が続くような日を選んで除袋する。除袋は9月25日頃までには終える。

イ 無袋

収穫予定の25日前頃からはじめ、5日前頃までには終える。特に着色しにくいので葉摘みは数回に分けて行う。収穫は着色の良いものから数回に分けて行うが、あまり遅くまでおくと油上がり多くなるので注意する。

(5) ふじ

有袋、無袋とも収穫予定日の35日前頃（本年は9月末頃）から葉摘みを行い、10月25日頃までには玉回しを含めた着色管理を終えるようにする（除袋は9月20日頃から、除袋方法はジョナゴールドと同じ）。

表2 主な品種の着色管理と収穫時期（平年）

品種名	葉摘み期間	玉回し期間	収穫期間	留意事項
早生ふじ	9/15～9/25	9/20～9/30	10/1～10/10	すぐりもぎ
シナノスイート	9/20～10/5	9/25～10/5	10/10～10/17	心かび果の除去
紅玉	9/15～9/30	9/20～9/30	10/12～10/20	収穫を遅らせない
ジョナゴールド（有）	9/20～10/5	9/25～10/5	10/13～10/23	除袋は9/25で終了
ジョナゴールド（無）	9/20～10/10	9/25～10/10	10/15～10/25	すぐりもぎ
ふじ（有）	9/25～10/15	10/10～10/25	11/1～11/10	
ふじ（無）	9/30～10/25	10/15～10/25	11/4～	貯蔵用は早め収穫

※今年は3日程度前倒して作業を進める。

○つる割れ

ふじのつる割れは、開花の早い年や満開後71日～120日の総降水量が多い年に発生しやすいとされている。

本年の満開日は三戸、八戸とも5月7日でいずれも平年より早かった。満開後71日～120日（7月17日～9月8日）の総降水量は三戸で409.5mm(平年比146%)、八戸では370.5mm(平年比162%)と両地区とも平年より多くなっていることから、つる割れの発生は多いと予想される。

収穫が遅くなるにつれてつる割れの発生も多くなることから、収穫適期前からつる割れがみられる場合は、収穫を遅らせないようにする。

(6) 支柱、枝つりの見直し

りんごの肥大に伴い枝が下がってくるので、随時支柱のかけ直しや枝つりを行い果実に十分日光が当たるようにする。

(7) 収穫時の注意

疫病の発生を防ぐため、収穫時果実に泥が付着しないよう注意する。

3 台風対策（果樹共通）

すでに台風により被害に遭った園地もみられている。今後も台風が接近する可能性があるため、気象情報に十分注意し台風の接近が見込まれる場合は、以下の対策を行う。

(1) 事前対策

- ① 防風ネットを張り、破れている部分は補修する。
- ② りんごのわい化樹や幼木は、倒木しやすいので、再度支柱のぐらつきや主幹との結束状況を点検し、補強する。
- ③ ぶどうの垣根、なし棚、ハウス施設等は、再度点検し、支柱等で補強する。
- ④ 収穫適期に達した果実は、速やかに収穫する。

(2) 事後対策

- ① 園地に停滞している水は、速やかに排水するとともに、土壌中の過剰水は、排水溝に集め、ポンプで汲み上げる。
- ② 冠水した園地では、できるだけ早く、果実や葉に付着したゴミを取り除き、泥を清水で洗い落とす。また、有袋果は除袋してから、これらの管理を行う。
- ③ 倒伏した樹は、できるだけ早く起こし、支柱で支える。
- ④ ぶどうの垣根、支柱等が倒れた場合は、速やかに補修する。
- ⑤ 水に浸かった果実は区別して収穫する。傷ついたり、腐敗した果実は、速やかに取り除く。
- ⑥ 土砂の集積が激しい場合は、樹の根元の土砂を取り除く。
- ⑦ 落果した果実を加工用に仕向ける場合は、農薬使用上の問題がないことを確認する。